

# 公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団 2024 年事業計画(案)

自 2024 年 4 月 1 日 至 2025 年 3 月 31 日

## 【基本方針】

- ①コミュニティ財団としての資源仲介という目標を持って寄付資源循環を生み出す
- ②団体支援拠点「泉北ラボ」の安定化
- ③助成プログラムの強化
- ④事業指定寄付・遺贈寄付基金など発信強化

## 1. コレクティブインパクト推進事業

### ①団体支援拠点「泉北ラボ」の運営を通じたコーディネートを行う

下記機能を提供し団体支援拠点としての経営を安定化する

継続して取組むこと

- ・会議室、レンタルスペース・コワーキングスペースの貸し出し
- ・アウトリーチ型子ども食堂運営団体(おかず BOX) へのシェアキッチン提供
- ・コーディネーターと連携

今年度注力すること

・泉北ラボの標準化を横展開するためのノウハウを活かした視察プログラム作成 <★新規取組>

- ・泉北ラボ実行委員会(コーディネーター会議)を通じた運営体制の設定
- ・運営コーディネーターの育成プログラムの広報と開発
- 泉北ラボを利用する団体や相談者、寄付に関心のある市民への機能の充実
- ・アウトカム指標を整理するための日報の分析

スケジュール

月曜日～土曜日 9:00～18:00 継続して社会実験を行う

※祝日・日曜日休日

短期アウトプット

年間利用者数 のべ 25,000 人(レジ通過者数・23 年度 1 万 6000 人)

年間利用団体・活動 のべ 200 件(23 年度 125 件)

短期アウトカム

団体支援拠点「泉北ラボ」の経営的な安定化

ニュータウンにおけるコミュニティビジネスと社会課題解決の視察が増えている

泉北ラボノウハウを活かした視察プログラムを通じて泉北ラボ的空間が地域で始まっている

### ②泉北ラボ実行委員会を中心とした支援者と資源のコーディネートの実施

下記を実施する

今年度注力すること

- ・地域活動団体や支援組織としてのネットワーク会議のコーディネート

### ①・②積算根拠

事業収入 349,8 万円

運営協力費 60 万円(月 5 万円)

レンタルスペース利用料 306,000 円(月 25,500 円・月 17 組)

家事室利用 13,2万円(月1,1万円・月20回)  
コワーキングスペース 24万円(月40時間)  
コピー機など活動支援 6万円(月0,5万)  
視察料収入 150万円(視察 年150組/ノウハウテキスト1500円×700冊)  
業務委託費 660,000円(月55,000円・みどり学園より)

支出計画 3,411,470円

給料手当 90万円  
賃借料 78万円(月165,000円を按分)  
会議費 6万円  
旅費交通費 5万円(乗組員他)  
水道光熱費 42万円(薪代6万円+水道光熱費 36万円)  
事業消耗品費 60万円(月1,2万円)  
通信運搬費 10万円  
印刷費 25万円(フリーペーパー 年22,8万円・チラシ4万)  
業務委託費 15万円(電話代行サービス他按分)  
損害保険料15万円(火災保険)

③コミュニティフリッジ運営事業

今年度注力すること

- ・地域で気軽にできるフードドライブ活動(食品寄付)の発信
- ・コミュニティフリッジ(地域からの寄付を配分する冷蔵庫)の仲介・管理
- ・提供希望の登録者数を増やす

積算根拠

事業収入 寄付 700,000円  
事業支出 食品購入48万円  
管理費 70,000円  
システム利用料 150,000円

④おかずBOXの普及拡大支援

今年度注力すること

- ・おかずボックスの回数を増やし選択肢を増やせないかコーディネート支援
- ・泉北ラボコミュニティフリッジとの仕組みの連携
- ・おかずボックスの他地域への横展開

積算根拠

事業収入 事業収入(会場使用料) 1,5万円  
事業支出 給料手当 1,5万円

⑤事業評価の実施

短期アウトプット

年間事業寄付 1000万・寄付者300名・組織  
助成原資 750万円  
コミュニティフリッジ利用希望者 100名

短期アウトカム

泉北のまちと暮らしを考える財団として、地域の新しい資金循環の

中長期ビジョンを策定できている

⑥事業評価の実施

今年度注力すること

- ・モニタリング指標の月次の見える化
- ・ニュータウンにおけるコミュニティビジネスと社会課題解決モデルとしての指標を定められている

※定款に定める事業(1)(2)(3)(7)(9)

2. 助成プログラム事業

(1)集める

①泉北ニュータウンの子どもたちの「見えない孤独孤立」

今年度注力すること

- ・目標100万円
- ・基金への安定収入をめざす
- ・基金に寄付財源を増やすためのパンフレットを作成する
- ・地域誌・ケーブルテレビを通じた発信を行う
- ・泉北クラウドファンディングサイトの利用件数増加・・・地域活動団体ポータルサイト「コミュニティ基金」にてクラウドファンディングを行う

②大阪&堺の災害 備え基金 大阪災害基金

今年度注力すること

- ・目標200万円
- ・基金への安定収入をめざす
- ・基金に寄付財源を増やすためのパンフレットを作成する
- ・地域誌・ケーブルテレビを通じた発信を行う
- ・泉北クラウドファンディングサイトの利用件数増加・・・地域活動団体ポータルサイト「コミュニティ基金」にてクラウドファンディングを行う

③団体冠基金の実施

今年度注力すること

- ・地域で新たなチャレンジできる泉北クラウドファンディングサイトを一般提供する
- ・目標100万円×3団体
- ・基金設置を市民参加型円卓会議を通じてテーマを掘り下げる
- ・基金への安定収入をめざす

上記①～③スケジュール

2024年

- 4月 助成プログラム情報発信
- 5月 冠立ち上げ団体公募
- 12月 助成プログラム第1回助成公募
- 1月 助成プログラム第1回審査
- 2月 助成プログラム第1回実施～

積算根拠

事業収入	600万円(助成原資 450万円)
事業支出	600万円

60万円(基金の10%)を原資として	
支払助成金	540万円
会議費	0.9万円
事業消耗品費	3万円
通信運搬費	6万円
印刷費	16,9万円
広告宣伝費	5万円
人件費	25,2万円(1名×47時間)
支払手数料	3万円

④財団独自の休眠預金を支えるための寄付プログラムの実施

今年度注力すること

・本財団が調査や次の事業を生み出すための基金を設立する。

積算根拠

寄付金収入	300万円
講座・テキスト販売	150万円

⑤事業評価の実施

短期アウトプット

年間事業寄付 600万・寄付者500名・組織

短期アウトカム

寄付の問い合わせが年50件増えている

⑥新しい資金源の獲得<★新規取組>

地域課題調査を通じて新しい助成プログラムを構築する。そのために必要な資源(テーマ型基金による寄付、他財団による助成金)を獲得する準備を行う。

短期アウトプット

次年度助成プログラム事業規模1団体500~3000万円規模の助成プログラム

短期アウトカム

助成プログラムを通じた自走型自治モデルを実施する団体が新たに3つ生まれている

(2)分配する

①泉北ニュータウンの孤立と地域をつなぐ助成の実施

休眠預金等活用法に基づく資金分配団体として草の根事業支援の助成対象事業

・助成総額 1.53億円(2021年度~2024年度)

・実施時期 通年

今年度注力すること

・空き家・空き団地・空き室を拠点とし活用したコミュニティビジネスの伴走支援

・空き家・空き団地・空き室をソフト事業の活用モデルの情報発信

・空き家・空き団地・空き室をソフト事業の資金支援

・空き家・空き団地・空き室のソフト事業を通じた社会的インパクト評価の調査

積算根拠

事業収入

助成金収入 35,517,000

事業支出

支払助成金 3000万円

人件費 409,5万円

役員報酬 525万円

法定福利費 40,9万円

謝金 172,7万円

事業消耗品費 42,7万円

通信運搬費 30万円

リース料 7,8万円

賃借料 60万円

支払手数料 13万円

※定款に定める事業(4)

### 3. 啓発事業

#### (1) コーディネート

##### ① おおさか災害支援ネットワークへの資金的支援

目的 OSN は、大阪府域における災害発生に備え、平時より多様な市民セクターや企業・団体等が行政や関係機関と連携し、互いの活動や災害に対する取り組み、課題を共有しながら、災害時には広域的かつ効果的に連携し、被災者支援を円滑に行うことを目的としています。

- ・災害時につながる、参加団体間の災害支援に関する学び合いと情報共有による“顔の見える関係づくり”のためのコーディネーターとして参画する
- ・特に財団の強みである資金的支援のための基金の立上げ、寄付者や支援者につながる仕組みを提案する。

##### ② 孤独孤立啓発事業

- ・2023年度に立ち上げた孤独孤立基金と事業報告書を基本に啓発とモデル事業開発を継続する。
- ・特に財団の強みである資金的支援のための基金の立上げ、当事者の声が支援者や行政とつながる地域円卓会議を提案する。

積算根拠

事業収入 3,700,000円(23年度 未実施)

(①補助金申請中120万/②補助金申請の検討 250万円)

事業支出

給料手当 185万円

諸謝金 50万円

会議費 3,15万円

旅費交通費 10万円

資料印刷費 12,000円(資料代)

会場利用料 18,000円(泉北ラボ半面利用6回)

消耗品費	97,550 円
研修費	100,000 円
通信運搬費	92,500 円
水道光熱費	92,500 円
印刷製本費	40万円
業務委託費	40万円
賃借料	12,5万円
支払手数料	1万円

#### ①遺贈寄付受付の相談事業の実施

##### スケジュール

- ・地域に寄付する市民を増やすための土業向け・市民向け勉強会を実施する  
土業とのプロジェクトチームの発足(4月～)
  - ・遺贈寄付の相談機能強化のために、全国レガシーギフト協会との連携(4月～)
  - ・遺贈寄付の窓口を設置し遺贈寄付の文化を泉北ニュータウンに発信する
- ##### 今年度注力すること
- ・いぞうの窓口の PR
  - ・泉北ニュータウン住民や土業への PR

積算根拠については下記に含める

#### 2. 助成プログラム事業

##### (1)集める

#### ③堺市南区子ども応援プラットフォーム「ココ×カラ」事務局 プラットフォーム加盟団体を中心に団体情報を発信する。

##### 今年度注力すること

- ・コロナ禍での団体運営のノウハウ共有
- ・地域内での連携ノウハウ共有

積算根拠

事業収入	無し
事業支出	無し

#### ④事業評価の実施

※定款に定める事業(5)(6)(7)(8)

#### (2)地域課題調査の実施

- ・泉北や周辺地域で活動する団体へのヒアリングを実施する  
5月～7月 調査 / 8月～12月 コミュニティ基金サイトへの掲載  
パートナー 大学生などインターンを公募して実施する
- ・泉北ニュータウンの子ども・保護者の実態を把握するためのアンケート調査  
4月 連携可能校区への呼びかけ  
6月 調査の実施

積算根拠

3. 啓発事業(1)コーディネートに含める

4. 管理業務

(1) 賛助会員<★新規取組>

当財団の基盤強化のために管理業務として寄付者獲得を強化する。

目的は安定的な財源確保および本財団支援者の拡充のための会員の獲得を重視する。

そのために、既存寄付者とのコミュニケーションを再度丁寧に行なうだけでなく、SNS などと通じたコミュニケーションを活性化する。

今年度注力すること

本格的な賛助会員募集を行う

寄付者との定期的なコミュニケーションを実施する

WEBメディアを使い有料登録する形のマンスリーサポーターを増やす

短期アウトプット

財団の基盤を支える受取寄付 480万円をお預かりする

WEBメディア活用したマンスリーサポーター年3600円×100人生まれている

短期アウトカム

約600人の基盤を支える支援者を得て地域の課題解決を行なう担い手を発掘できている

(2) 公益認定業務

公益認定法人としての運営を安定化する

今年度注力すること

コンプライアンス委員会や個人情報の保護などガバナンス体制の強化を行う

(3) 内部管理体制

寄付者管理・寄付証明書発行のクラウド化

公益法人に求められる健全な内部管理体制整備(規程類の整備および見直し)

マニュアル類の整備等

今年度注力すること

ガバナンス基盤を高める役職者研修やマニュアル類の整備

(4) 研修・他地域交流

今年度注力すること

・全国コミュニティ財団協会に引き続き加盟し、研修会に参加する

・47コロナ基金をはじめ全国ネットワークからの情報を得る

・災害時クラウドファンディングなど他地域へのノウハウ提供を行う

(5) 情報発信

ホームページ・SNS やアニュアル・レポートの内容充実

(6) 運営

中長期的視点を持った健全な財務運営の維持のために事業を改善するために理事会を毎月開催し議論を行う。

積算根拠

事業収入 516 万円 (1) 賛助会員<★新規取組>

事業支出 181 万円

人件費 50, 7万円円

交通費	90,000 円
通信運搬費	10, 6万
水道光熱費	17,7 万円
印刷製本費	2,2 万円
委託費	12 万円(電話代行サービス 1 万円)
リース料	1,3 万
支払手数料	2 万円
賃借料	60 万円
事業研修費	50 万円(書籍代含む)
諸会費	16万円

以上